第 4 号

本田初期編

令和4年5月9日発行
山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト
最上地域本部
最上総合支庁農業技術普及課
Tel 29-1329 （稲作担当）

# 「田植え日和」の移植＋適正な水管理で初期生育確保！

## ＜本田初期における作業・管理のポイント＞

～活着を促進させ、初期生育（茎数）を確保しましょう！～

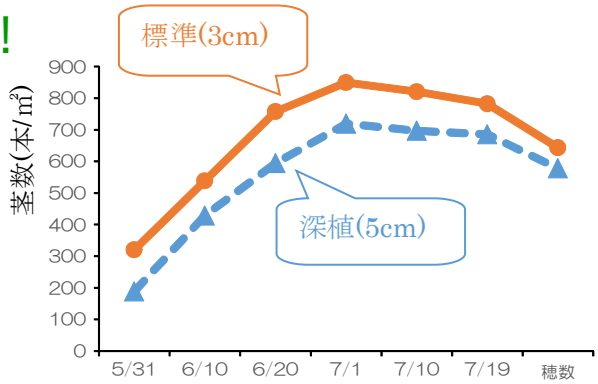
### 1 「田植え日和」を選んで適期の田植えを心掛けましょう！

低温・強風日の移植は植え傷みの原因となり、活着や初期生育の遅れにつながります。２～３日程度好天が見込まれる日に移植を行いましょう。

### 2 適正な植付深・栽植密度の徹底を！

植付深：３cm 程度
深植えは、大きな穂をつける初期の分げつの発生を抑制します(右図)。

栽植密度：70 株/坪
植込本数：4～5 本/株、100 本/㎡
㎡当たりの植込本数が少ないと、穂数不足、一穂籾数過多による品質・食味・収量低下の要因になります。



(R1 庄内農業技術普及課「つや姫」実証圃)

### 高密度播種苗移植のポイント

Point① 丁寧な代掻きで、浮苗・転び苗・欠株対策を！
Point② 苗の老化が早いので、播種後 20 日を目途に移植を終える
Point③ 第 1 葉の黄化がみられたら、移植 3 日前に窒素成分 1g/箱の追肥

### 3 初期生育確保に向けた水管理の徹底を！

移植～活着まで：水深を４～５cm で稲体保護＆活着促進

活着後：日中は水深２～３cm の止め水で分げつの発生促進（浅水管理）
ただし、低温や強風時には水深 4～5cm 程度（深水管理）とし、稲体の保護に努めましょう。

**水交換・軽い田干しで土壌の異常還元（ワキ）対策！！**
**5 月 19 日頃発行の第 5 号「本田初期水管理編」にて、詳しく解説します。**

## 4　いもち病防除

葉いもち

箱施用剤の入れ忘れに注意！

地域全体の発生源とならないよう、計画した剤は忘れずに施用しましょう。

置き苗は田植え後１週間程度を目安に処分

置き苗はいもち病の発生源となります。
忘れずに処分しましょう。

## 5　雑草防除

効果的な雑草防除を行うためには、各圃場の雑草発生状況（雑草の種類や葉齢等）を把握して適切な薬剤を選択することが重要です。また、除草剤の効果を最大限発揮させるためには、適期散布と適切な水管理が重要です。

### （１）散布時期

雑草の発生状況を確認し、雑草が小さいうちに散布を行います。
雑草の葉齢展開はイネよりも早いため、防除適期を逃さないよう注意！

### （２）水管理

散布時の水深は剤型に応じて

粒剤：3～5cm

ジャンボ剤・フロアブル剤：5cm 以上

散布後はしっかり水尻を止め、漏水を防ぎましょう

散布後７日間は止水管理とします。

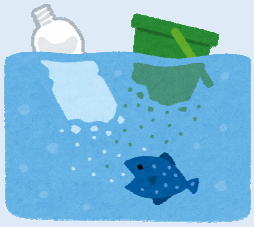
＊薬害とドリフト防止のため、強風時の除草剤散布は控えましょう。

「山形県農作業事故防止啓発運動～春季運動強化期間
（４月１０日～６月１０日）」

①補助作業者を田植え機前部にしがみつかせての退出は厳禁！
②苗の受け渡し時は足元の安定を確認！
③整備は必ずエンジンを止めてから！動く爪は触らない！

一発肥料のプラスチック殻を圃場から流出させない対策を！

一発肥料を被覆しているプラスチックが、河川や海へ流出することが問題になっています。
殻を圃場から流さないため、浅水代かき、排水口にネットを設置する等の対策を行いましょう。



やまがたアグリネットが新しくなりました！

やまがたアグリネットでは、お使いの PC やスマートフォンから作物別・地域別の最新情報をご覧になれます。会員登録無料！